

## 暴力を受けているのは あなただけではありません

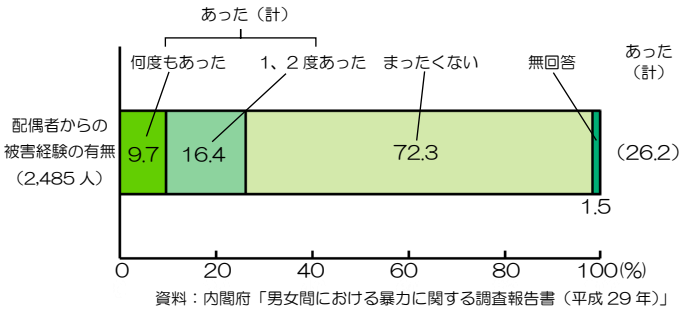
DVは犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であり、決して許されるものではありません。

DVはその多くが家庭内で起こるため、周囲も気付かないうちに暴力がエスカレートし、被害が深刻化しやすいという特性があります。

国の調査によると、これまでに結婚したことがある人のほぼ**4人に1人**が、配偶者から何らかの被害経験があると答えています。

### ●配偶者からの被害経験

「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかを1つでも受けたことがある



## DVにはいろいろな暴力があります

暴力は1つで起きることもありますが、何種類かの暴力が複雑に絡み合い、繰り返し起こり、エスカレートする場合があります。

### 性的暴力

- 性行為を強要する
- ポルノ雑誌などを見せる
- 避妊に協力しない など

### 身体的暴力

- 殴る ● 蹴る
- 刃物などを体につきつける
- 髪を引っ張る
- 首をしめる など

### 社会的隔離

- 外出や親族、友人との付き合いを制限する
- 電話やメールを細かくチェックする など

### 心理（精神）的暴力

- 大声でどなる
- おどかさ ● 無視する
- 子どもに危害を加える など

### 経済的暴力

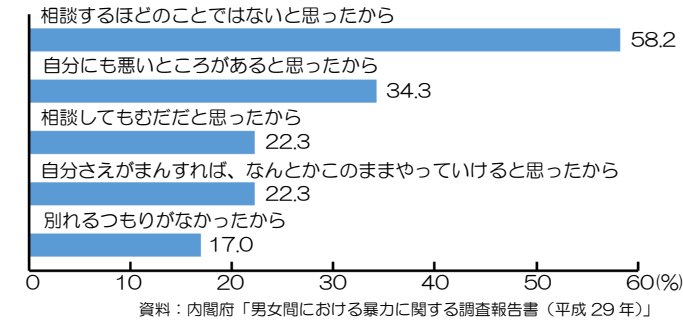
- 生活費を渡さない
- 働き収入を得ることを妨げる
- 借金を重ねる など

## ひとりで悩んでいませんか？

DVは家庭内の問題、個人の問題だからと自分の力で解決しようとしていませんか。そんな思いから相談をためらう人が少なくありません。

国の調査によると、配偶者からDV被害を受けた人の**半数近くが「どこ（誰）にも相談しなかった」と**答えています。その理由として、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」、「別れるつもりがなかったから」が多くあげられています。

### ●相談しなかった理由



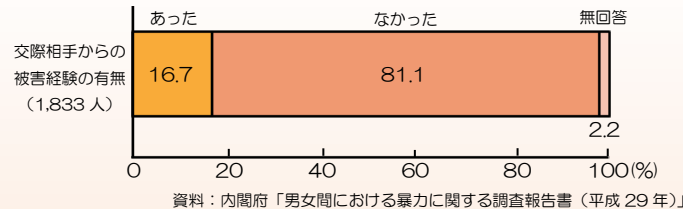
## 「デートDV」を知っていますか？

男女間における暴力は、配偶者間だけで起こっている問題ではありません。

国の調査によると、交際相手がい（いる）人のほぼ**6人に1人**が、交際相手からの暴力、いわゆる「デートDV」を受けたことがあると答えています。

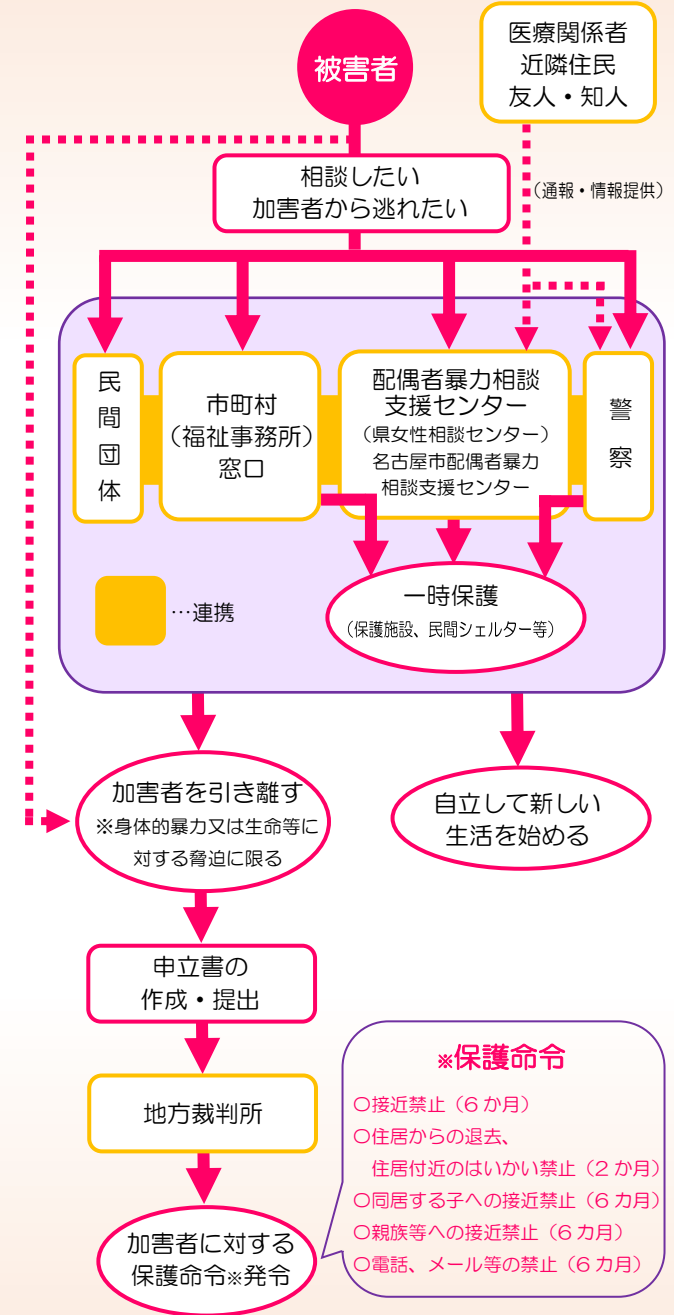
### ●交際相手からの被害経験

「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかを1つでも受けたことがある



デートDVはエスカレートすると、ストーカー行為や暴行・傷害につながる恐れもあります。デートDVを受けているときは、自分を責めたり、1人で解決しようとしたりしないで、**お近くの相談窓口**に早めに相談しましょう。

## DV被害者への支援の流れ



各種相談窓口は裏面に記載してあります。